

令和5年度第2回埼玉県食育推進検討会議 議事概要

1 日時

令和5年9月8日（金） 18時30分～20時00分

2 方法

zoomによるオンライン会議

3 出席者

〈委員〉（敬称略・順不同）

伊藤 雄介（一般社団法人埼玉県歯科医師会 常務理事）

鵜納 里々花（県民代表）

小野 毅（埼玉県中学校長会 幹事）

久保 彰子（女子栄養大学 栄養学部准教授）

佐々木 志万子（埼玉県市町村保健センター連絡協議会 副会長）

佐藤 道子（埼玉県食生活改善推進員団体連絡協議会 副会長）

田島 和彦（公益財団法人埼玉県学校給食会 常務理事(事務局長)）

登坂 英明（一般社団法人埼玉県医師会 常任理事）

平野 孝則（公益社団法人埼玉県栄養士会 会長）

*市川 秋行委員（埼玉県農業協同組合中央会 JA支援部 農政・広報・組合員組織担当部長）、杉井 みどり委員（埼玉県公立小学校校長会）は欠席

〈関係課〉

農業政策課、農業支援課、畜産安全課、保健体育課、生涯学習推進課

〈事務局：健康長寿課〉

課長 加藤絵里子、副課長 矢内孝司、主幹 荒井今日子、主査 石川 清子、
主査 飯田 浩美、主事 守菜々子、技師 新井 里美

4 議事

埼玉県食育推進計画推進検討会議設置要綱第6条に基づき、平野委員長を議長として会議を進行した。

議事1 第8次地域保健医療計画について

- 事務局から資料説明（資料1）
- 質疑、意見等
特になし。

議事2 埼玉県食育推進計画（第5次）（素案）～現状と課題～について

- 事務局から資料説明（資料2）
- 質疑、意見等
特になし。

議事3 埼玉県食育推進計画（第5次）（素案）～指標案～について

- 事務局から資料説明（資料3）
- 質疑、意見等
特になし。
- 素案、指標案について承認をいただいた。

5 その他

各委員からの御意見

○ 伊藤委員

最近が高齢化に伴って高齢者の人口が増加傾向にあるため、う蝕や歯周病に罹患している者の数は確実に増えてきていると思う。今後始まる国民皆歯科健診には期待をしており、う蝕や歯周病を早期に発見、早期に治療予防することができ、結果として食育推進計画の指標でもある60歳代における咀嚼良好者の人数が増加し、ゆっくりよく噛んで食べる県民の人数も増加するのではないかと思っている。

○ 鶴納委員

食育ボランティアに関わっている人数の減少について話があったが、体感的には、コロナをきっかけに若い世代のお母さん方が、SNS等独自の形で何か教えるというような動きが増えてきたと感じる。そういった方々がうまく

情報共有ができればよいと思う。

○ 小野委員

指標 12「彩の国ふるさと学校給食月間において、学校給食や食に関する指導を通して地元産食材の理解を深める活動をした小中学校の割合の増加」については目標値 100%を達成できると考える。活動ができていない学校に対しては活動している学校の取組の情報共有を行うとよい。そうすることで食への関心や自分の健康に関して生徒一人一人が興味を持つのではないか。

○ 久保委員

データソースについて、(昨年度実施した) 県民栄養調査では、対象者に尿検査を依頼して尿中のナトリウム、カリウムの測定をしている。この結果を追加してはどうか。例えば食塩摂取量を減らすことと、野菜摂取量を増やすことは、取組みを組み合わせの方が効果があると言われている。

また目標達成できなかった項目に対しては、次の6年間同様の取組を行っても達成できない。取組について改めて検討し記載していただきたい。

○ 佐々木委員

朝食を欠食する若い世代等、健康に関心のない世代へのアプローチが非常に難しい。

また子ども食堂等に携わった経験から、子どもが自分で食べることの大切さを感じている。親だけでなく子どもが自分で作って食べることも重要。

○ 佐藤委員

減塩に関して、調理講習会等では一日の食塩摂取量 7.5g、一食の食塩摂取量 2.5g 以内を目標にバランスメニューを提案しているが、工夫として食事全体で塩分調整をしていくことも重要。志木市が行った減塩レシピコンクールのよう、減塩をテーマとしたキャンペーン等を行うことも必要である。

ボランティアの減少については、食生活改善推進協議会ではコロナ禍や家庭環境の変化、高齢化等により活動ができないうちに辞めた人が多い。ただ食に関するボランティアとして、高齢者のサロン、子ども食堂等単発で食を提案する方はいる。そういったグループに対しての草の根的な活動は続けて

いるが課題が多い。

○ 田島委員

減塩に慣れるには小さい頃からの食生活の習慣が重要視されており、学校給食においては、給食1食分で食塩の摂取量を2グラム程度に抑えるよう取り組んでいる。しかし家庭における食が重要であり、今後学校給食会では学校給食教室という保護者を対象にしたイベントを予定している。今回はだしがテーマ。家庭における減塩の一助になればと考えている。

○ 登坂委員

食塩摂取量の目標値 7.5gということであるが、フレイルの高齢者は血中のナトリウム濃度が低く、食の回数が減ってきたり1回で食べる量が減ってくると、低ナトリウム血症になってくる傾向にある。そのため、年代別の必要量は見ていくべき。

また若い世代の中には朝プロテインだけを飲んでいる人がおり、腎臓に負担がかかる。朝食を欠食するよりもいいのかもしれないが、少し心配している。

以上